

## 共同の取り組みによって人類の危機に立ち向かおう -新型コロナウイルスのパンデミックの中での広島・長崎原爆投下 75 年にあたって-

2020 年 8 月 6 日 核戦争に反対する医師の会

75 年前、アメリカによって広島、長崎に投下された原子爆弾は、瞬時に多くの人びとを地獄に陥れ、その年の終わりまでに 21 万人の人びとのいのちを奪った。その後も放射線は被爆者の身体を傷つけ続け、「人間として生きること」も許されなかった。

我々の先輩医師たちは、自らも傷つきながらも献身的に犠牲者の治療にあたり、全国からも多くの医師が支援に駆け付けた。しかし、余りにも多くの犠牲者、破壊された医療施設、医薬品・医療機器の中で、医療は余りにも無力だった。その後、放射能汚染の中での救助の困難さも明らかになった。先輩の医師たちは、「治療ができないのであれば予防しかない」と、核戦争を防止し、核兵器の廃絶の運動に携わってきた。

被爆者の「放射能による苦しみを二度と繰り返すな」という願いと核兵器開発の被害者、非核兵器国の多くの国々、市民団体などの運動によって、戦後 75 年核兵器が使われることがなく、2017 年には核兵器禁止条約が採択され、間もなく 50 か国が批准し、発効する見通しとなっている。

しかし、米ロを中心とする核兵器国はこれまでの NPT 再検討会議の合意にも従わず、核兵器の開発競争を行い、INF 条約を破棄し、新 START 条約の期限切れをもくろみ、CTBT 条約にも背を向けている。核兵器国は、自らの国の安全を守るためには核兵器が必要であると主張するが、そうであるならば、すべての国が核兵器を保持すれば、世界は最高の「安全」の状態になると考えているのであろうか。

ミラトガーズ大学の研究チームは、緊張が続くインドとパキスタンの間で核戦争が起こったら、推定死者数は 1 億 2500 万人で、大量のちりが大気中に拡散して日照を遮ることで世界的な気温の低下や降水量の低下が起り、農産物の生産に大きな影響を与えると予測した。核戦争防止国際医師会議も、同様の試算を行い、約 20 億人が「核の飢餓」に陥ると警告している。核戦争は、瞬時に新型コロナウイルス感染の犠牲者をはるかに超える人々を殺傷する。

今、人類の生存を脅かす三つのリスクが進行している。一つは、新型コロナウイルスの感染拡大であり、二つめに気候変動に伴う自然の凶暴化であり、三つめは核戦争のリスクである。

新型コロナウイルス感染は、中国武漢から感染が広まって約半年の今日、世界で 1800 万人を超え、70 万人が死亡している。医療体制が十分ではない国々での感染の広がりもあり、実際の数字はこれ以上になっていると推測される。皮肉なことに、世界最強の核軍備を有するアメリカで爆発的感染を起こし、多くの国民が亡くなっている。2019 年核保有国 9 カ国で合計 730 億ドルが核兵器関連軍事費に使われている。「大砲かバタカ」という論争があるように、これまで軍備の増強と社会保障の充実に成功した国はない。国の安全保障のための軍事費の増強よりも、国民の安全保障のために、生活や社会保障に資金を使うべきである。

終末時計は過去最短の 100 秒を示している。これを、「おおげさ」だと思わない方がよい。たとえ終末に至らなかったとしてもそれは「幸運」だっただけだ。

核戦争が瞬時に人類を危機に陥れるものとするれば、感染症は徐々に危機に陥れ、地球の温暖化は緩慢に危機に陥れる。各国は、これらの人類の危機に共同して対策をたてるべきである。

人類史上初めて戦争に核兵器が使われてから 75 年、これからも私たちは「幸運」に未来をかけることはできない。戦争による唯一の被爆国である日本もこの核兵器禁止条約を批准することを強く要求する。核兵器禁止条約を発効させ、核兵器に「悪の烙印」を押し、核兵器に依存する国々を包囲しようではないか。